

東部水産漁港部だより

宮城県東部地方振興事務所
水産漁港部「みやぎ水産の日」PR広報紙

3月号

(令和2年3月27日発行)

【お問合せ先】水産漁港部内 水産振興班, 漁業調整班
TEL:0225-95-7914, 1473



～魚市場編～魚の“旬”をお知らせします!!

～石巻魚市場編～

石巻魚市場に春を告げる『養殖ギンザケ(金華ぎん)』の県内初入荷が、取材日の3月16日(月)から始まり、シーズンの到来に市場は活気に包まれていました。金華ぎんは主に刺身用として関東や関西方面に流通します。今回の取材では、『メバル』、『シラウオ』、『マボヤ』などの入荷・水揚げがあり、季節の移り変わりを感じました。

養殖ギンザケ (金華ぎん)

石巻魚市場に養殖ギンザケを初出荷したのは、石巻市鮎川地区と女川町尾浦地区の生産者です。入荷数量は魚体1.0～1.5kgが主体で合計約10tです。入札金額は1kg上は839円～870円/kg, 1.5kg上は, 800～880円と比較的高値で取引されました。石巻魚市場(株)佐々木茂樹社長は「新型コロナウイルス感染拡大の影響を懸念していたが、ますます高値で良かった」と話していました。

全国的なサーモンブームの中、平成29年3月にGI(地理的表示)認証された『みやぎサーモン』の効果もあり、宮城の養殖ギンザケの需要は高まっています。出荷最盛期の初夏にむけて、今シーズンの豊漁を祈念しております。



養殖生けすからトラックで運ばれてきた「ギンザケ」



重量別自動選別機に「ギンザケ」を入れます



一尾ずつ丁寧に選別トレイに載せます



500g単位で自動選別されます



鮮度を保つために多くの水を入れます



「ギンザケ」の見本出し

まき網

取材日は、まき網船3隻より「マサバ」が約690t水揚げされ、82~93円/kgで取引されました。

3月も「マサバ」や「マイワシ」のまとまった数量での水揚げが続いています。



船倉からの水揚げの様子



水揚げの様子



水揚げ直後のマサバ



サンプルを並べます



魚体を計測(約35cm)

陸送品・活魚

「陸送品・活魚」ゾーンでは、旬の魚が取り扱われており季節の移り変わりを感じます。

今月は、「シラウオ」460kgが入荷しました。パックに詰められ、周りを氷で囲み鮮度を維持し販売しています。

「マボヤ」143kgも入荷しました。これから初夏に向けて旬を迎えます。

3月に入り、「シャコ」の水揚げ量も増えてきました。取材日は158kg入荷しました。最近では、年間を通じて水揚げがありますが、これから産卵期に入り旬を迎えます。今月は「ヤマトシジミ」、「アサリ」なども入荷しました。



シラウオ



メカブ



マボヤ



シャコ



ヤマトシジミ



アサリ



ボッケ(ケムシカジカ)



メバル



ハダガレイ(ホシガレイ)



スイ(クロソイ)

底曳き・定置網

底曳き網では、「スケトウダラ」約76t、「マダラ」約14tの他「ケガニ」、「アオメエソ(メヒカリ)」、「ヌマガレイ」などが水揚げされました。定置網では、「マイワシ」128tの他、「スズキ」などが水揚げされました。



マダラ



スケトウダラ



ケガニ



アオメエソ(メヒカリ)



カナガシラ



ヌマガレイ



マイワシ



マダラ

～女川魚市場より～

3月9日(月)、宮城県歌津沖で漁獲されたイサダ(ツノナシオキアミ)約23tの今季初水揚げがあり、養殖ギンザケ(金華ギン)の初入荷も3月23日(月)より始まりました。春漁の開始に市場は活気に満ちあふれています。

イサダ漁

3月9日(月)午後、女川魚市場に5隻22.5t(753カゴ)の今季初水揚げがあり、78円～80円/kgで取引されました。

9日以降も16日に6.4t(215カゴ)、17日には43.8t(1463カゴ)水揚げされ、取引価格も110円～120円と高値で推移しています。女川魚市場のイサダ(ツノナシオキアミ)は主に養殖魚の餌や水産加工品の原料として流通します。

濃い桜色したイサダは、小エビのようも見えますが、「エビ」ではなく、「オキアミ」に分類されます。



水揚げの様子



水揚げされたイサダ



魚体は2cm程度です



出荷の様子

「第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会～」 大会記念リレー放流が実施されました

令和2年9月27日(日)に開催される「第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会～」に先立ち、宮城県では大会の開催趣旨の周知と、水産資源の保護に関する教育活動の一環として、令和元年7月から県内各地で大会記念リレー放流を実施しています。

令和2年2月には、北上川漁業協同組合のご協力を頂き、サケ稚魚のリレー放流を行いました。

第8回目の大会記念リレー放流は、2月20日(木)に、登米市豊里町で実施し、登米市立豊里小・中学校の5年生49名が参加しました。児童はバケツへのメッセージ記入や、北上川漁協の職員の方からサケの説明を受けた後、サケの稚魚約25万尾を放流しました。

27日(木)には、登米市津山町で第9回目の大会記念リレー放流を実施し、登米市立米谷小学校の4年生10名が参加しました。第8回目のリレー放流と同様に、放流バケツへのメッセージ記入などを行った後、約27万尾のサケの稚魚を放流しました。

参加した児童達は手を振り、「元気でね」「大きくなって帰ってきてね」などと声をかけながら、元気に泳ぐ稚魚を見送っていました。



▲第8回大会記念リレー放流の様子



▲第9回大会記念リレー放流の様子

「全国豊かな海づくり大会」とは？

全国豊かな海づくり大会は、魚食国である日本人の食卓に、安全で美味しい水産食料を届けるために、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、明日のわが国の漁業の振興と発展をはかることを目的として、昭和56年に第1回大会が大分県で開催されて以来、都道府県ごとに毎年開催されています。



【編集後記】

北上川漁協の皆さんが丁寧に飼育し、小・中学校の児童の皆さんが放流したサケの稚魚が、4年後に大きくなって戻ってきてくれることを切に願っています。

徐々に暖かい日が増えていますが、油断せず体調管理には十分気をつけたいと思います。皆さんもくれぐれもご無理などなされないよう、ご自愛ください。